

## ■肢体不自由のある子どもたち・知的障害のある子どもたちへの実践事例

# 肢・知併置校における マルチメディアDAISY図書を活用

東京都立鹿本学園  
本多桂子

### はじめに

東京都立鹿本学園は、肢体不自由教育部門（小・中・高）と知的障害教育部門（小・中）、2部門5学部で構成される特別支援学校です。児童・生徒数は肢体不自由教育部門159名、知的障害教育部門273名、合計432名と大規模校であり、子どもたちの障害の状況は多様です。

本校は2014年開校から、読書活動の推進を学校経営計画で示し、読書環境の整備や読書週間など、子どもたちの意欲を高める取り組みを、全校一丸となって実践してきました。その成果が認められ、2017年度には「子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」を受賞することができました。

また、2017年11月より『言語活動及び読書活動の充実事業研究指定校』として、東京都教育委員会から指定され、東京都内の特別支援学校の読書活動の支援などを積極的に行っています。

マルチメディアDAISY図書は、本校の読書活動の一端を担っており、言語能力の向上を目指した授業実践を展開

する際の大きな力になっています。

### 2018年度の実践

本校は、人々と協調し豊かにたくましく生き抜くことができる確かな学力と自信を身につけさせ、共生社会をつくる人材の育成を目標にしています。障害の程度・状態にかかわらず、言語の表現手段や文章表現の習得および思考力・判断力を伸長させるため、前読書期の初期段階の指導から多読期・成熟読書期にいたる段階的な指導を行うとともに、読書環境の整備やICT機器を活用した読書活動の拡大を図っています。

今年度も、全校では昼休みなどを利用し、マルチメディアDAISY図書を活用したお話会（以下キャラバン）と称し、大型テレビによる集団視聴を継続展開しました。このキャラバンは両部門とも司書教諭が各教室を訪れる巡回型で行いました。この取り組みは特に小学部低学年で好評を博し、10分以内の短い作品や、授業などですでに読み聞かせをしていた作品は、子どもたち

が喜んで視聴していました。筋緊張が強く、車いすなどに座っていることが困難な子どもたちでも、リラックスした姿勢で視聴すると、表情豊かに見ることができました。

このキャラバンに加え、司書教諭が教職員へマルチメディアDAISY図書の使用法の説明や、作品リストの提供を行い、発達年齢に応じた作品内容の選び方の助言を行うなど、全校への普及と啓発に努めました。キャラバンと同じことを、教員がすぐに行えるのでマニュアルや作品リストは大変有効でした。

個別や小集団での授業実践では、子どもたちの実態に合わせた使用方法を、検討しました。今年度は本を借りるのが楽しくなってきた小学部2年生の活用例を報告します。

## 小学部2年生の活用例

### ①対象

- 肢体不自由教育部門 自立活動を主とする教育課程 7名
- 知的障害教育部門 自閉症学級 5名

### ②期間 5月～12月

### ③時間 週1回 国語・算数の授業

### ④形態 大型テレビによる集団視聴

\* 肢体不自由教育部門では視聴する際は、多様な障害の実態から、楽に見られる姿勢で行いました。

### ⑤視聴した作品

肢体不自由教育部門は、『ノンタン』『ぐりとぐら』『はらぺこあおむし』などの物語から15分以内の作品を視聴しました。知的障害教育部門では『おいしいおと なあに?』『かお かお どんなかお』『ことこと』『へんしんトンネル』『がたんごとん』などの5～10分程度の作品を視聴しました。

### ⑥成果と課題

両部門ともにマルチメディアDAISY図書の読み聞かせを毎回楽しみにし、気に入ったフレーズを声に出して発話するようになりました。面白い場面や好きな場面、クイズに答える場面などで、うれしいという気持ちを動作で表出する子どもも見られました。また、何度も読み聞かせしてもらっている絵本は、マルチメディアDAISY図書で再度視聴することで「このお話は知っている、楽しいことが始まるよ」という期待感をもつことができました。逆にマルチメディアDAISY図書で視聴した作品を、紙媒体の絵本で見ることで、興味・関心が高まった事例もありました。



肢体不自由教育部門(5月)

肢体不自由の子どもでは、身体の障害の状態によって見続けることがむずかしい場合もあります。そこで楽な姿勢で視聴することで、見るだけでなく、聞くことで親しむことができました。前の写真は、マルチメディアDAISY図書を視聴し始めた5月頃の様子です。教師が積極的に、子どもに言葉かけしながら視聴していました。



肢体不自由教育部門(10月)

マルチメディアDAISY図書の視聴に慣れた10月頃の様子です。自分で15分くらいの作品に集中して視聴できるようになりました。

両部門ともに回数を重ねる度、一定の時間読み聞かせに集中できるようになりました。とくに知的障害教育部門では読み聞かせ中に、教師が見る姿勢の直しを支援したことで、正しい姿勢での着席ができるようになり、集中力の向上につながりました。ひらがな学習に取り組んでいる子どもは、文字の

ハイライトを見ることで字形を意識し、語彙が増え、さらにカタカナへの関心をもつようになりました。

知的障害特別支援学校における自立活動の指導は特設時間ではなく、教育活動全体で行っている学校が多くあります。本校の知的障害教育部門当該学級では、国語科の指導内容との関連を図り、実際の生活の中での改善につながると考え、特別支援学校学習指導要領の自立活動の内容の「人間関係の形成」活動の中で、他者の意図や感情の理解に関することに関連させて学習しています。

たとえば、『かお かお どんなかお』という作品は、楽しい顔、悲しい顔、笑った顔、泣いた顔、いたずらな顔など、さまざまな顔の表情を大胆にデフォルメして切り絵で表現した「表情の絵本」ですが、単純でわかりやすいイラストが、子どもたちにとって感情をイメージしやすかったようです。

この作品を通して、喜怒哀楽を表情で表現する練習をしました。教師がマルチメディアDAISY図書を見ながら、表情を動作でリズムよく表現して指導していました。こうした表情の変化を体験しながら、自分の気持ちを相手に伝えやすくしたり、相手の気持ちを受け入れやすくなったり、やりとりをするきっかけになったりと相手を意識し、気持ちを伝えあうことにつながります。

マルチメディアDAISY図書の活用で、教師が見本を見せながら、読み聞かせができるので、子どもたちにとっては理解しやすかったようです。



知的障害教育部門(5月)

マルチメディアDAISY図書を見はじめた5月の写真です。『ノンタン』を視聴した様子です。馴染みのある5分程度の作品でも、集中して視聴するのはむずしかったです。



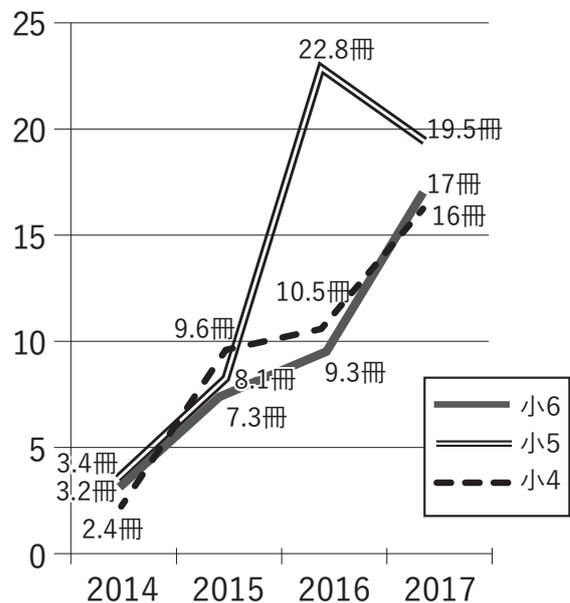
知的障害教育部門(10月)

読書活動を習慣化し、自立活動と連携させて姿勢や人との関わりなどを学習に取り組んでいた10月の様子です。

集中する持続時間が伸び、教師の模倣や感情の読み取りなどが上手になってきています。

## 本校の読書活動の実態

図は、2014年に知的障害教育部門小学部1～3年生だった子どもたち（現在4～6年生）1人あたりの貸出数の変化を表したものです。



図：開校後の1人あたりの貸出数

読書活動を小学部低学年から段階的に実施することで、徐々に習慣化と定着を図ることができていることがわかります。習慣化が定着している子どもは、読書推進月間などのイベントに関係なく、週に1～2回の読書活動を国語・数学、生活単元学習などの授業時間を活用し、読み聞かせや音読などの授業を展開しています。

本校の読書活動は、両部門とも小学

部1年生の2学期から本格的に始まります。両部門ともに教職員が積極的に図書指導を行うことで、本への興味を高めて関わるようになります。

肢体不自由教育部門は、障害により自分で本をめくる、選んで取り出すことの困難さがあるため、教職員が図書館へ一緒に行くことが、貸出数に大きく影響します。

それに対し知的障害教育部門では、図書貸出マナーの指導はとくに重要であり、本を楽しむための準備期間を要します。教職員が貸出に対してのルールを段階的に指導していくことが、読書習慣を定着させることの第一歩となります。子どもの発達の実態に応じて習慣化には差が生じます。このような読書活動を始めてから、本をめくるのが大好きで、本を集中して見られるようになって、見る力が伸びたり、ひらがなを指差ししながら読めるようになったり、友達を誘って図書室へ行き、友達へ読み聞かせをしようとする子どもが見られるようになりました。また、読むことや聞くことを通して文字への興味を高め、読書を通して集団の中で友達を意識するようになった事例もありました。この事例の中には紙媒体の図書になじまない子どもたちがマルチメディアDAISY図書を使用することがきっかけで読書活動を展開することが

できた事例もあります。

たとえば、視覚障害があり、紙媒体での本を面白いと感じなかった子どもが、このマルチメディアDAISY図書を体験することで、紙媒体で聞いた本を思い出して、触る本などにも興味をもち、読書活動に積極的に参加することができるようになった事例です。

今後、マルチメディアDAISY図書の効果的な活用を考えていくうえで、紙媒体と連携させた意識的な取り組みが重要です。マルチメディアDAISY図書を見せるだけでなく、日々の読書指導の中で、集団での視聴を体験することで、友達を意識する、指さしで友達へ読み聞かせるなどの人への関わりを意識させながら活用し、表現する力（伝える力）、想像する力、興味・関心を広げる力、楽しさを深める力などを獲得することが有効だと考えています。

## おわりに

障害などによって、普通の本では読書することが困難な子どもたちにとって、自分で読む、聞くことを体験できる電子図書は、本に関わるきわめて有効な機会だと考えます。これからも読書への子どもたちの興味・関心を高める有効な手段として、マルチメディアDAISY図書がより充実していくことを期待しています。